



# かぞくのえほん



## 「いのちのまつり」サンマーク出版

「ヌチヌグスージ」とは、沖縄の方言で「いのちのお祝い、いのちのお祭り」という意味。悠久の時の流れの中、広大無辺な生命のつながり。いのちの大切なつながりを描いた絵本。一部のページが大きく広がる楽しいしかけ付き。



## 「あかちゃんがやってきた」福音館書店

「あかちゃんがうまれるの」ある日、お母さんがぼくにささやいた。弟かな？ 妹かな？ ぼくは弟がいいな…。赤ちゃんが生まれてくるまでの、男の子の期待をあたたく描く。



## 「いろいろななかぞくのほん」少年写真新聞社

家族は、いろいろ。いろいろな家族がある。大家族もあれば、ふたりっきりの家族もある。住んでいる家や、休みの日の過ごし方、学校や仕事のことも、それぞれちがって…。多様化する家族の形をイラストで楽しく紹介する。



## 「かえりけるファミリー！」ひさかたチャイルド

かえりけるファミリーの子どもたちは、いつもおなかがペコペコ。そこでとうちゃんが、賞品をもらえる相撲大会に出場することに…。家族愛とユーモアが満載の愉快なかえり家族のお話。



## 「ぼくのしんせき」岩崎書店

押入れの中から、親戚と一緒にうつった写真を見つけたけど、ぜんぜん覚えていない「ぼく」。今度のお盆は、3年ぶりに親戚が集まる。わくわくどきどきの再会の日、サプライズが待っていた！



## 「だいすきなぼくのかぞく」小学館

大好きで、大切な音楽を禁じられた悲しみ。少年ミゲルは、今日も街に流れる音楽に思いをはせ…。ミゲルが「音楽」と出会うまでを描いた、2018年3月公開映画「リメンバ－・ミー」のサイドストーリー。



## 「ふじさんファミリー」金の星社

ふじさんしろうのママがあかちゃんを産んで、さんしろうはお兄ちゃんになりました。でもママは赤ちゃんの世話で疲れて怒ってばかり。ある日とうとう、さんしろうは泣きながらママの元を飛び出し…。



## 「かぞくのひみつ」エイアールディー

ないしょだよ。うちのママ、本当はヤマアラシなんだ。だって、朝、いつもより早く起きたら、トゲトゲあたまのヤマアラシが台所に…。アルゼンチンを代表する絵本作家イソールの、子ども心に寄り添った、ユーモラスなお話。

